

2019年4月23日

日本ガス協会 広瀬会長 会見発言要旨

1. 自由化の進捗状況

これまでは関西におけるスイッチングが多かったが、ここにきて件数では関東が関西を上回った。スイッチング率では近畿と中部が10%を超えている状況。全国計でみたスイッチング率は8.3%であり、選択約款等を分母から除いた場合は10.7%。同じ基準で見ると、電力の自由化2年経過時点よりも高く、ガスでもスイッチングは相当進んでいる。関東のスイッチング件数が関西を上回ることは、関東での新規参入者が多いこともあり、時間が経てばこうなるであろうと想定していたことである。

既存の都市ガス事業者は、大手電力会社と各地域で競争しているが、苦戦をしている状況。例えば西部ガスでは、2年間で失ったガスのお客さま件数が、3年間で獲得した電力件数をわずかに上回っており、これは他地域でも同様の傾向であり、東京ガスも時間の問題であろう。ちなみに西部ガスと九州電力の規模を比較すると、売上高では15倍程度、従業員数でも10倍近い違いがあるなど、ガス会社と電力会社の差は大きい。ガス会社も一生懸命やっているが、ここにきてこの体力差が数字にも表れてきている。

一方、電力市場では、小売事業者の撤退や、またイーレックスのように大手電力と提携するケースも増えてきている。このように既存の電力会社に対し、新規小売電力事業者は苦戦しているが、これは、大規模発電設備を持っていない故の電力調達の問題が大きいと受け止めている。

もう1点、「エネルギー供給構造高度化法」の審議会が行われ、非化石取引に関する議論がなされている。事業者間で非化石電源の保有状況に差がある中、今後の制度設計次第では、LNG中心の都市ガス事業者は大変厳し

い状況になると思われる。今後の審議の推移について注目していきたい。

2. エネファーム販売開始 10 周年

エネファームは 2009 年 5 月に販売が開始され、この 5 月で 10 周年を迎える。当初はコストや設置性など課題があったが、関係業界のお力添えもあり、2018 年度末の累計販売台数は 27 万 6 千台を越え、今年度中には 30 万台を突破する見込みである。

エネファームはクリーンな発電システムであり、温暖化対策として有効であるとともに、自然災害が頻発する昨今、分散型電源としても活用できる製品であり、更なる普及拡大を期待している。

3. Natural Gas Day 2019

今年 6 月下旬に大阪で G20 首脳会合が、またその前段の 6 月中旬には軽井沢で G20 エネルギー・環境大臣会合が開催される。ガスの世界的な組織であり、日本からは日本ガス協会が加盟している「国際ガス連盟 (IGU)」は、ここ数年、G20 開催国でシンポジウム (Natural Gas Day) を開催し、そこで採択した宣言をエネルギー・環境大臣会合の中に反映していく取り組みをしている。今回の G20 に向けては、IGU と日本ガス協会が共催で 6 月 12 日に Natural Gas Day を実施する。IGU 会長とともに記者会見を行うため、是非お越し頂きたい。

4. 最後に

この 4 月から 5 月にかけては時代の変わり目ということもあり、4 月は新元号や新紙幣の発表、2 回の統一地方選の実施などイベントが目白押しであった。そして 5 月からは「令和」がスタートし、それに関連する諸行事も実施される。さらには 10 連休といった、今まで経験のない大

型連休も控えている。ガス業界としてもそれらに問題なく対応できるよう、万全の体制を組んでいるところである。

以上